

各地幼稚園

園だより

鹿兒島女師附屬・吳ルンビニ幼稚園

鹿兒島女師附屬幼稚園

鹿兒島女師附屬幼稚園保母

大迫トミ

倉橋先生方の御著日本幼稚園史にもお述べ下さつてあります通り、當幼稚園が我が國の古い幼稚園に致しましての歴史を負つております意味あひから、此處にその沿革の大略を述べさせて戴きたいと存じます。

明治十二年四月、鹿兒島に於て幼稚園が設立せらるゝことになりました。これが鹿兒島幼稚園と稱し、今の鹿兒島縣女子師範學校附屬幼稚園の前身であります。設立に於ては女高師附屬幼稚園に次ぐ古い幼稚園であります。創設に當つては、當時東京女子師範學校保母の豊田芙英雄女史を迎ふる事になりました。鹿兒島に出張せられた女史は、直に幼稚園創設の任に當り、幼兒の保育を實地に指導されつゝ保母の養成にあたられたご伺つて居ります。この時その薰陶にあづかりし者七名、フレーベル氏の二十恩物、話方、音樂、其の他保育に關する一切の指導をうけられたのであ

ります。わけても音樂は琴（當園に殘存）笏拍子、歌などの場合によつてなされたもので、未だ洋樂の發達しない當時のここなれば、總て豊田女史の苦心の作になつたものと聞かされて居ります。先きに先生御逝去のことと承りましたは感謝哀悼の念にたえません。

翌十三年五月前記の七名は豫定のことを修め終へられ、保母の免許を受けられる同時に五月三十一日附の辭令をもつて本縣幼稚園保母として直に就任、豊田女史は間もなく歸京せられました。以後各保母の異動はありましたが、明治四十年迄は専ら女史の教を奉じつゝ、只一つ、附屬幼稚園なるものが守られて來たのであります。

明治十三年本校が鹿兒島師範學校と合併につき、鹿兒島師範學校附屬幼稚園と改稱せられて女子教場の管理となりました。

明治十八年保育六人幼児百十餘人となり、讀方、書方、結び方、なぎ必須科として附加せられ、今日の小學校のやうに教授せられたのださうです。鹿兒島縣幼稚園を改稱せられて獨立することになり、師範學校校内の一隅に移轉し師範學校長を園長に頂くことになりました。

明治四十三年獨立の女子師範學校創設せられ、翌年其附屬幼稚園として、在來の園舎は勿論、幼児までも其のまゝ引き受けた新たに保育を開始し、女子師範學校校長を園長として二人の保姆が置かれました。幼児の數四十三名、翌年四月全幼児を小學校へ送り、新らしく募集を行ひ一年保育兒一年保育兒各二十四名、之を二組に編成して保育する事になりました。昭和十三年十二月には現在の新園舎の落成を見、年末には當園保護者會の絶大なる御後援のもとに二千六百年記念事業としての炊事場が増設せられ、遍食矯正並に食事の訓練もたやすく出来る様になりましたことを喜んで居ります。

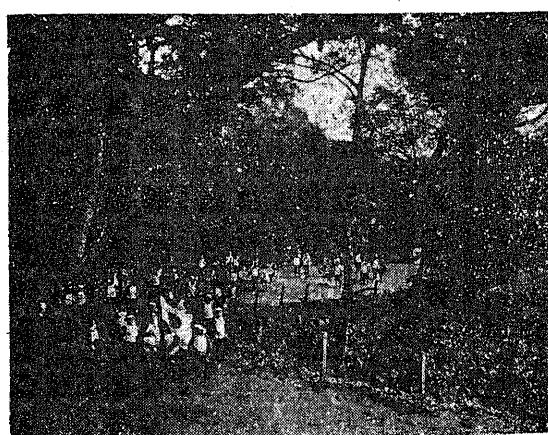
現在は、二年保育で、園児數七十名、職員數二名、保育料、一圓保育養成科生(昭和十四年新設)十四名であります。

幼稚園内の日々の遊びも申しましても殆んど他の幼稚園と相合致するものが多くございますので特記致しません。幾多の偉人傑士を輩出した郷土鹿兒島は、早くから幼児

の教育の必要な事に着眼せられ、東京に次いで我が鹿兒島にも創設せられたのであります。偉大なる先輩の志をせんぐ希ぶ私共は、郷土の子供達のよりよき育成のためにあらん限りの誠を保育道に捧げたいと思ひます。

次に寫眞の説明を申し上げます。

(一)自然を満喫する城山踏破
當園の裏山として親しみを持つ城山(大西郷終焉の地)は



然自を満喫し、つし踏山城

蝶取り、花つみ、バッタ追ひ、蟲取り、落葉拾ひ、ドングリ拾ひ等々數へあれば數限りなく、四季變化極りなく、興味のつきない唯一の體鍊道場であります。この神祕な城山の懷の中に吸ひ込まれる如く喜々として足を運ばせる児たちの姿。

(二) シャモさんもおいで

全幼兒は未だ出揃ひませんけれども、冬も申しましても小春日和の様な和かい日差しに、幼兒たちは元氣一杯今日一日の遊びを繰り擴げようとしてゐる所であります。

ルンビニ幼稚園

ルンビニ幼稚園主事 利島勝進

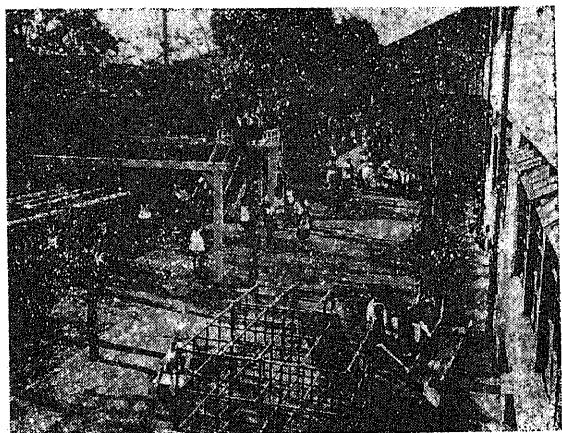
當幼稚園は吳市神田町九丁目にあり、佛教關係の幼稚園であります。

一、ルンビニの名稱

四月八日、大聖釋尊が御誕生遊ばされた印度のルンビニ

の花園名を稱ぶので、即ち大聖者のお誕生遊ばされたなごやかな、しかもうらゝかさう又家庭生活から集團生活への子供の誕生の園として、こういふ名稱がついたのです。

一、職員數



でいおもんさモヤシ